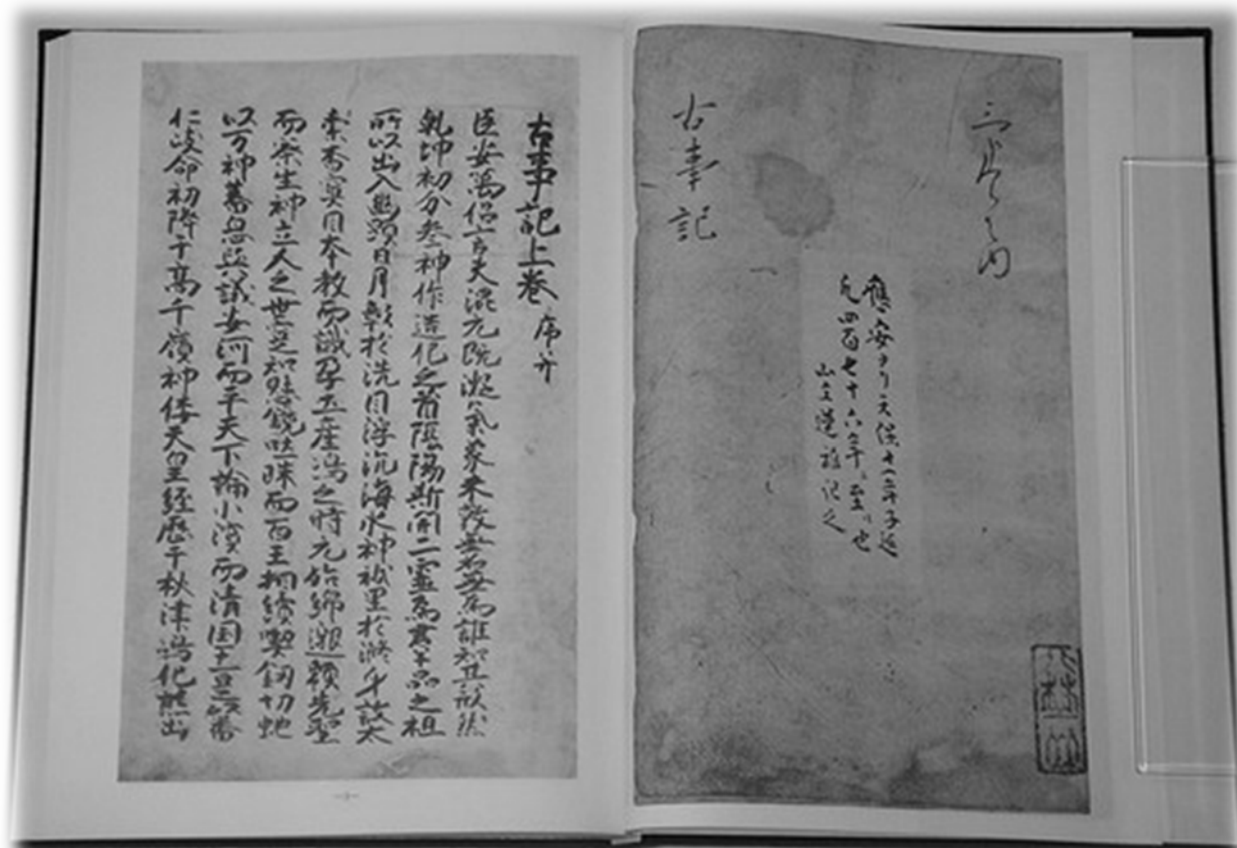


古事記



古事記上巻 宇宙のはじめのくんだりから、国生みのくんだりまで。

肆、古事記 上巻

古事記上巻は、宇宙のはじまりと、そこから造化三神がなり現れる場面から始まる。そして、イザナギ・イザナミによって日本の国土が産み落とされ、国土の上にはたくさんの神々が生まれていく。こうして日本の国土は神々や人々がたくさん生活する土地となった。

上巻では、神話世界が展開されている。あまり難しく考えずに読んで欲しいストーリーが満載である。小学生くらいの子ども達にぴったりの副教材にもなりうる。

上巻が神話世界に終始しているのは編纂側の意図であろう。この上巻の最終段に後の神武天皇となる若御毛沼命、別名 豊御毛沼命、別名 神倭伊波礼毘古命の誕生が描かれていることは重要なポイントである。

古事記上巻

【天之御中主神と神々】

【天地のはじめ】

天地初發之時。於高天原成神名。天之御中主神【訓高下天云阿麻下此】次高御産巢日神。次神産巢日神。此三柱神者。並獨神成坐而。隱身也。

次國稚如浮脂而。久羅下那洲多陀用幣琉之時【琉字以上十字以音】如葦牙因萌騰之物而。成神名。宇摩志阿斯訶備比古遲神【此神名以音】次天之常立神【訓常云登許訓立云多知】此二柱神亦獨神成坐而。隱身也。

上件五柱神者。別天神。

天地がまだ混沌としていた時の話。
造化三神がまずなり、そのあと二柱、合わせて五柱の天つ神があらわれる。

【神世七代】

次成神名。國之常立神【訓常立亦如上】次豐雲(上)野神。此二柱神亦獨神成坐而。隱身也。
次成神名。宇比地迹(上)神。次妹須比智迹(去)神【此二神名以音】次角杵神。次妹活杵神【二柱】次意富斗能地神。次妹大斗乃辨神【此二神名亦以音】次淤母陀流神。次妹阿夜(上)訶志古泥神【此二神名皆以音】次伊邪那岐神。次妹伊邪那美神【此二神名亦以智如上】

上件自國之常立神以下。伊邪那美神以前。并稱神世七代【上二柱。獨神各云一代。次雙十神。各合二神云一代也。】

神代七代と呼ばれる神々があらわれる。

最初の二柱はそれぞれ一代、その後にあられた十柱は男神女神ならんであられたので二神それぞれあわせて一代とする。

【伊邪那岐命と伊邪那美命】

【おのころ島】

於是天神諸命以。詔伊邪那岐命伊邪那美命二柱神。修理固成是多陀用幣流之國。賜天沼矛而。言依賜也。故二柱神立【訓立云多多志】天浮橋而。指下其沼矛以畫者。鹽許袁呂許袁呂迹【此七字以音】畫鳴【訓鳴云那志】而。引上時。自其矛末垂落之鹽。累積成嶋。是淤能碁呂嶋【自淤以下四字以音】。

其嶋天降坐而。見立天之御柱。見立八尋殿。於是問其妹伊邪那美命曰。汝身者如何成。答曰吾身者成不成合處一處在。爾伊邪那岐命詔。我身者。成而成餘處一處在。故以此吾身成餘處。刺塞汝身不成合處而。爲生成國土奈何【訓生云宇牟下效此】伊邪那美命答曰然善。爾伊邪那岐命。詔然者吾與汝行迴逢是天之御柱而。爲美斗能麻具波比【此七字以音】如此云期。乃詔汝者自右迴逢。我者自左迴逢。約竟以迴時。伊邪那美命先言阿那迹夜志愛(上)袁登古袁【此十字以音下效此】後伊邪那岐命言阿那迹夜志愛(上)袁登賣袁。各言竟之後。告其妹曰。女人先言不良。雖然久美度迹【此四字以音】興而。生子水蛭子。此子者入葦船而流去。次生淡嶋。是亦不入子之例。

修理固成の神勅がイザナキ・イザナミにくだる。これをうけて、「日本」という国がつくられる。塩を固めたおのころ島で二人は交わって子を産むが、はじめは失敗する。

【国生み】

於是一柱神議云。今吾所生之子不良。猶宜白天神之御所。即共參上。請天神之命。爾天神之命以。布斗麻迹爾【上。此五字以音】卜相而詔之。因女先言而不良。亦還降改言。故爾反降。更往迴其天之御柱如先。於是伊邪那岐命。先言阿那迺夜志愛袁登賣袁。後妹伊邪那美命言。阿那迺夜志愛袁登古袁。如此言竟而。御合。生子淡道之穗之狹別嶋【訓別云和氣下效此】次生伊豫之二名嶋。此嶋者身一而有面四。每面有名。故伊豫國謂愛【上】比賣【此二字以音下效 此】讚岐國謂飯依比古。粟國謂大宜都比賣【此四字以音】土左國謂建依別。次生隱伎之三子嶋。亦名天之忍許呂別【許呂二字以音】次生筑紫嶋。此嶋亦身一而有面四。每面有名。故筑紫國謂白日別。豐國謂豐日別。肥國謂建日向日豐久士比泥別。【自久至泥以音】熊曾國謂建日別【曾字以音】次生伊岐嶋。亦名謂天比登都柱【自比至都以音 訓天如云】次生津嶋。亦名謂天之狹手依比賣。次生佐度嶋。次生大倭豐秋津嶋。亦名謂天御虚空豐秋津根別。故因此八嶋先所生。謂大八嶋國。然後還坐之時。生吉備兒嶋。亦名謂建日方別。次生小豆嶋。亦名謂大野手【上】比賣。次生大嶋。亦名謂大多麻【上】流別【自多至流以音】次生女嶋。亦名謂天一根【訓天如天】次生知訶嶋。亦名謂天之忍男。次生兩兒嶋。亦名謂天兩屋。【自吉備兒嶋至天兩屋嶋并六嶋】

失敗の原因を突き止めた後、再び交わって次々に国土を産んでいく
はじめに八つの島を生んだことから、これらの島のことを特に「大八島の国」と呼んだりもする。総じて日本のことを指したりもする。

伍、参考資料・引用文献

古事記 倉野憲司注 岩波文庫
古事記(上) 次田真幸 講談社学術文庫
新版古事記 現代語訳付き 中村啓信訳注 角川ソフィア文庫
現代語訳 古事記 福永武彦訳 河出文庫
古事記に親しむ 佐久間靖之 (財)国民精神研修財団
古事記 記紀神話と日本の黎明 学研
古事記がわかる事典 青木周平編著 日本実業出版社

以下個人様ホームページ・ブログ

(<http://www.j-texts.com/jodai/kojiki.html>)

文章責任者 秋津島の蜻蛉

(http://sns.mynippon.jp/?m=pc&a=page_f_home&target_c_member_id=967)

以上